令和４年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立諸富南小学校

４月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

令和4年4月19日（火）

■ 調査の対象学年

小学校6年生児童

■ 調査の内容

（1） 教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）

①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。

②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。

調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、記述式の問題を一定の割合で導入する。

（2） 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

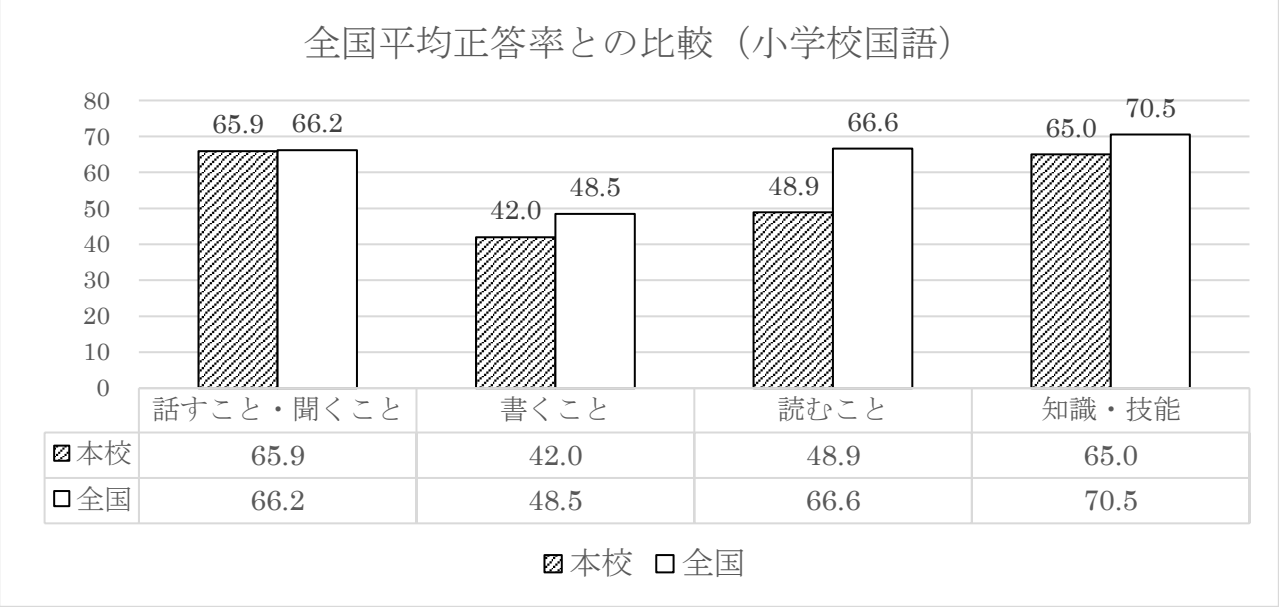
児童に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査 （例）国語への興味・関心、授業内容の理解度、読書時間、勉強時間の状況など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 （例）授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況など

■調査結果及び考察について

全国学力学習状況調査は小学６年生・中学３年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学・理科に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野（問題）です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部分」であり「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご欄ください。

■ 調査結果及び考察

1 国 語



（1） 結 果

国語科全体では、全国正答率 65.6%に対して、本校の正答率は 59.0%であり、6.4 ポイント下回りました。全国正答率を有意に下回る結果といえます。領域別では「書くこと」「読むこと」に課題があります。設問別正答率では、全 14 問中、3問が全国正答率を上回りました。

領域別正答率では、本校の国語の正答率は4つの領域いずれにおいても下回りました。「話すこと・聞くこと」では 0.3 ポイント、「書くこと」では 6.5 ポイント、「読むこと」では 17.7 ポイント、「知識・技能」では 5.5 ポイントそれぞれ下回りました。最も下回ったのは、「読むこと」の領域でした。

（2） 成果と課題

成果が見られたのは、大問3四「漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書く」、大問3三ア「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」設問です。これらは、全国正答率を 12 ポイント以上上回っています。

課題が見られたのは、全国を 10 ポイント以上下回った設問で、全部で6問ありました。大問2三「表現の効果を考える」（−22.8 ポイント）、大問2―(1)「登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉える」（−18.4 ポイント）、大問2二「人物像や物語の全体像を具体的に想像する」（−16.0 ポイント）、大問2―(2)「登場人物の相互関係について、描写を基に捉える」（−13.8 ポイント）、大問3二「文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける」（−12.7 ポイント）、大問1二「言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを捉える」（−12.0 ポイント）などの設問を解く力に課題が見られます。

（3） 学力向上のための取り組み

【学校では】

○読書タイムでは、図書室からの「おすすめ５０冊」の本を中心に読んだり、物語やエッセイなど文章量のある本を読んだりして、読書の習慣化や読解力の定着を図っています。

○週１回の聴き合いタイムでは、低・中・高学年ごとにねらいを設定し、ペアやグループでテーマに沿って聴き合い活動をしています。国語だけではなく、他教科でも聴き合い活動を取り入れ、自分の考えを深めたり広げたりしています。

○目的や意図に応じて、自分の考えとその理由を明確にしながら書く機会を増やします。

○語彙力、文法力を伸ばすために、視写学習に取り組んでいます。中高学年は「小学生新聞」も視写教材として活用しています。

○漢字の読み書き、ことわざ等の学習に一層力を入れるとともに、辞書を活用させ、語彙力を増やします。

○インタビュー、案内や紹介など、日常生活につながる言語活動を授業場面で設定します。習得した国語の力を活用させる場面を増やすことで、表現力を向上させていきます。

○一人一台学習者用パソコンを活用し、一人ひとりの興味・関心や習熟度別に応じて、繰り返し学習して習熟を図ったり、発展的な問題にチャレンジして活用力をつけたりしています。

○表現の効果を考えることができるようにするために、感動やユーモアなどを生み出す優れた叙述、暗示性の高い表現、メッセージや題材を強く意識させる表現などに着目して読むことを指導しています。

○登場人物の行動や気持ちを捉えることが必要となる言語活動を設定し、物語全体を見通して、複数の叙述を基に行動や気持ちを捉えることができるように指導しています。

○自分の文章のよいところを見付ける学習指導に当たっては、自分が書いた目的や意図を相手に伝えたり、感想や意見を具体的に伝え合ったりすることができるように指導しています。また、互いの文章を読み合うことで、経験の取り上げ方や言葉の選び方、書き方の工夫を認め合い、自分の表現に生かすことも指導しています。今後は自分の文章のよいところを見付ける指導をしていきます。

○言葉に相手とのつながりをつくる働きがあることを捉える学習指導に当たっては、話し手と聞き手の間に好ましい関係を築き、継続させる言葉の働きに気付くことができるように、聴き合いタイムで自分たちの話合いの様子を確かめる活動を設定していきます。

【ご家庭では】

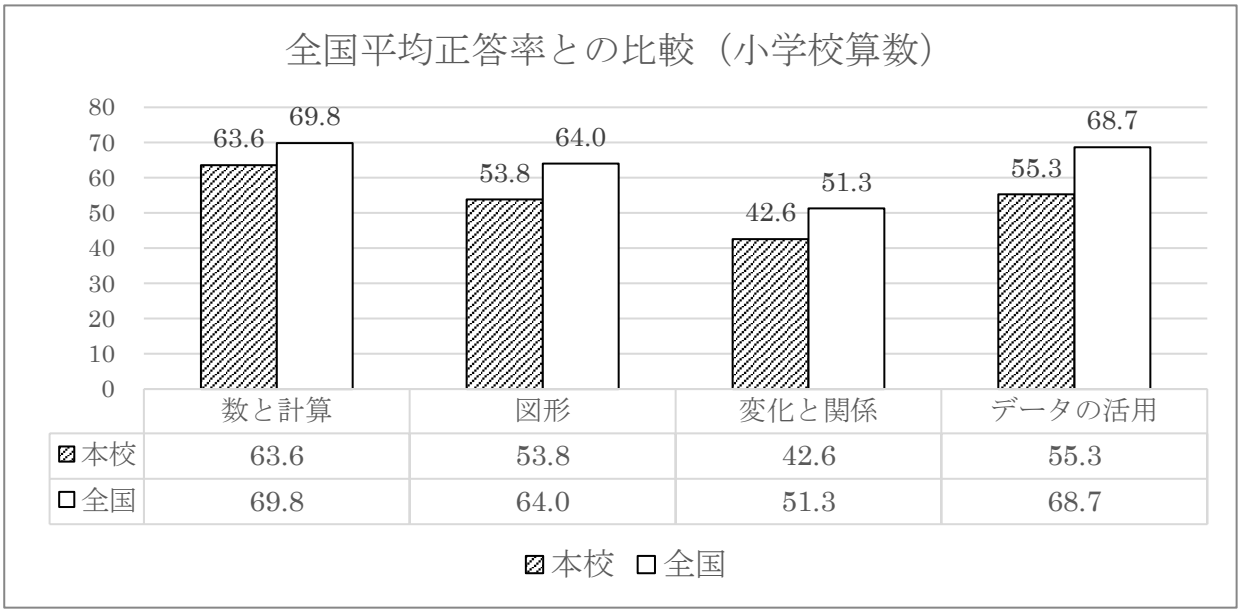
○音読を大切にしていきましょう。繰り返し音読することで、文の構成、言葉の意味を理解し、文節ごとにきちんと区切ってすらすら読めるようになります。文章を読み，要点や意図を捉えることは、国語科だけでなく全ての教科の学力向上に不可欠です。

○読書を大切にしていきましょう。文学・科学・歴史・地理・芸術…いろんな本を読み、いろんな表現や用語にふれることで、語彙力を高め知識の幅を広げることができます。市立図書館や本屋に定期的に行くことも、子どもの読書習慣をつける上でおすすめです。

○子どもが音読をしている間はなるべく大人が手をとめて音読を聴く姿勢を意識しましょう。子どものモチベーションアップになります。読み終わった後に、「上手だったね」「気持ちがこもっていたね」など一言褒めてあげると自信がつきます。物語などでは、感想を聞いてみるのもおすすめです。

○本の読み聞かせは、「自己肯定感」を高めます。「自己肯定感」を高めることは、交友関係や学力にも良い影響を及ぼし、自信をもって行動ができるようになります。

2 算数



（1） 結 果

算数科全体では、全国正答率 63.2%に対して、本校の正答率は 54.0%であり、7.2 ポイント下回りました。全国正答率を有意に下回る結果といえます。設問別正答率では、全 16 問中、全国正答率を上回った設問はなく、全ての設問で下回りました。

領域別正答率でも、本校の算数の正答率は4つの領域いずれにおいても下回りました。「数と計算」では 6.2 ポイント、「図形」では 10.2 ポイント、「変化と関係」では 8.7 ポイント、「データの活用」では 13.4 ポイントそれぞれ下回りました。すべての領域で全国正答率を5ポイント以上下回っています。最も大きく下回ったのは「データの活用」の領域でした。

（2） 成果と課題

全国正答率との比較において成果の見られた設問はありませんでした。

とくに課題がみられたのは、全国を 10 ポイント以上下回った設問で、全部で7問ありました。大問3(2)「分類整理されたデータを基に目的に応じてデータの特徴を捉え、考察することができる」(−23.0 ポイント)、大問4(1)「正三角形の意味や性質を基に、回転の大きさとしての角の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考察し、記述できる」(−21.5 ポイント)、大問 1(2)「二つの数の最小公倍数を求めることができる」(−17.7 ポイント)、大問3(3)「目的に応じて円グラフを選択し、必要な情報を読み取ることができる」(−16.8 ポイント)、大問4(4)「示された作図の手順を基に、図形を構成する要素に着目し、平行四辺形であることを判断できる」(−14.3 ポイント)、大問2(1)「百分率で表された割合を分数で表すことができる」(−14.3 ポイント)、大問2(2)「百分率で表された割合と基準量から、比較量を求めることができる」(−12.3 ポイント) などの設問を解く力に課題が見られます。

（3） 学力向上のための取り組み

【学校では】

○低・中・高に応じた問題提示を工夫しています。問題の中から解決に必要な情報を読み取る習慣をつけています。

○児童の実態に応じて適用問題を準備し、身に付けた思考力・判断力・表現力を活用して適用問題に取り組む時間を確保しています。今後は、日常生活で割合や最小公倍数や最大公約数を求める場面を考えるなど、適用問題を工夫して指導していきます。

○各学年で振り返り（算数日記）のポイントを設定し、算数用語を使ったまとまった文字数の文章を書く指導をしています。

○算数スキルタイム（週２回）の内容の充実を図り、基礎基本の力や活用する力をつけています。

○式から答えを出すだけではなく、式の意味を考えさせたり、式に合う問題を作らせたりしています。また、式から生活場面を想起させたりしながら、式、絵や図、具体的場面を行き来させるようにしています。

○様々な見方や考え方ができるように、ペアやグループで話し合う聴き合い活動を取り入れています。図・式・言葉を使って自他の考えを表現・想像し、つなげることで考えを広めたり、深めたりしています。さらに、図や式、言葉を使って、論理的に書く機会を増やし、記述力の向上に努めています。

○ＴＴ少人数指導、ノートチェック、プリント、活用力に特化したアルファードリルなど、日々の指導の中で個々のつまずきを早期に見つけ、補充指導に努めています。

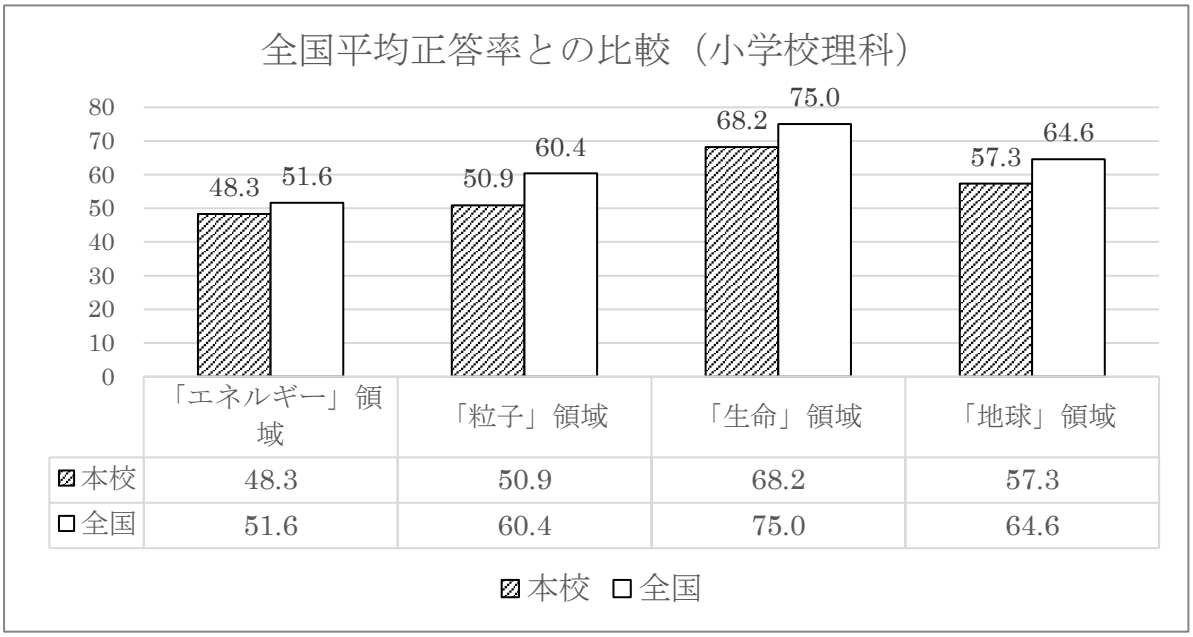
○一人一台学習者用パソコンを活用し、一人ひとりの興味・関心や習熟度別に応じて、繰り返し学習して習熟を図ったり、プログラミング学習や発展的な問題にチャレンジして活用力をつけたりしています。

【ご家庭では】

○お子さんのドリルやプリント等の宿題の様子やテストをご覧になって、たくさん励ましや称賛の言葉をかけてください。

○算数が好きにするには、「習ったことが生活の中で使えて、便利だな。おもしろいな。」と思う経験をさせることが有効です。生活場面で算数を使ってみてください。「おかし分けで割り算」「料理で重さ」「お風呂で水のかさ」「買い物で暗算」「折り紙で分数」「家の中で図形探し」「お菓子の空き箱を開いて組み立てる」など、ちょっと意識するだけで、身のまわりには算数を使えるものが意外とあります。ゲーム感覚で親子一緒に楽しめる算数遊びを是非やってみてください。

３ 理科



（1） 結 果

理科全体では、全国正答率 63.3%に対して、本校の正答率は 56.0%であり、7.3 ポイント下回りました。全国正答率を有意に下回る結果といえます。設問別正答率では、全 17 問中、3問で全国正答率を上回りました。

領域別正答率では、本校の理科の正答率は4つの領域いずれにおいても下回りました。「エネルギー」では 3.3 ポイント、「粒子」では 9.5 ポイント、「生命」では 6.8 ポイント、「地球」では 7.3 ポイントそれぞれ下回りました。3 つの領域で全国正答率を 5 ポイント以上下回っています。最も大きく下回ったのは「粒子」の領域でした。

（2） 成果と課題

成果が見られたのは、大問３(4)「実験で得た結果を、問題の視点で分析して解釈し、自分の考えをもち、その態様を記述できる」、大問１(1)「問題を解決するために必要な観察の視点を基に、問題を解決するまでの筋道を構想し、自分の考えをもつことができる」設問です。これらは全国正答率を５ポイント以上、上回っています。

課題がみられたのは、全国正答率を 10 ポイント以上下回った設問で、全部で８問あります。大問２(3)「自分で発想した予想と、実験の結果を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもつことができる」(−19.6 ポイント)、大問４(3)「観察などで得た結果を、結果からいえることの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる」(−18.2 ポイント)、大問４(2)「予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつことができる」(−14.5 ポイント)、大問２(4)「自然の事物・現象から得た情報を、他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できる」(−14.3 ポイント)、大問２(1)「メスシリンダーという器具を理解している」(−13.3 ポイント)、大問１(2)「自分で行った観察で収集した情報と追加された情報を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもち、その内容を記述できる」(−13.0 ポイント)、大問３(2)「問題に対するまとめを導きだすことができるように、実験の過程や得られた結果を適切に記録している」(−13.0 ポイント)、大問１(4)「提示された情報を、複数の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる」(−10.2 ポイント）などの設問を解く力に課題が見られます。

（3） 学力向上のための取り組み

【学校では】

○目的意識をもった実験・観察を行うための基礎的・基本的な知識・技能の定着を図ります。

○理科の学習過程を「事象提示→課題→予想→実験・観察→結果→考察→課題・・・」とし、一貫した学習指導を行うことにより、児童の思考力、判断力、表現力を向上させます。

○様々な見方や考え方ができるように、ペアやグループで話し合う聴き合い活動を取り入れています。また、結果に対する考察を論理的に書く機会を増やし、記述力の向上に努めています。

○実験で得られた結果を予想と照らし合わせ考察について検討して、改善し、より妥当な考えをつくりだす場面を設定して指導しています。

○観察、実験などで得た結果から結論を導き出すために必要な数量、変化の大きさなどの特徴を見つけ、自分の考えをもち、それらを話し合う場面を設定しています。

○自然の事物・現象に働きかけて得た事実について話し合う中で、自分や他者の気付きを捉え、主に差異点や共通点を基に、問題を見いだす場面を設定し、指導しています。

○観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けることができるようにするために、問題を的確に把握し、何を記録する必要があるかについて検討する場面を設定して指導しています。

【ご家庭では】

○お子さんのプリントやテストをご覧になって、励ましや称賛の言葉をかけてください。

○理科が好きになる場合も、「習ったことが生活の中で使えて、便利だな。おもしろいな。」と思う経験をさせることが有効です。星空を見上げて星座の話をしたり、コップの結露の理由を考えたりすることで、習ったことと日常生活での現象を結びつけると理解が深まることもあります。

○佐賀県立宇宙科学館や佐賀県立博物館などのイベントチラシ等も配布しております。一緒に行ってみることで、興味関心が向上することもあります。

4 生活習慣や学習習慣に関する調査

(1)結果

≪生活習慣・挑戦心・規範意識について≫

調査項目	本校　%	全国平均 %
朝食を毎日食べていますか。	78.7%	84.9%
毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。	48.9%	40.7%
毎日同じくらいの時刻に起きていますか。	61.7%	56.8%
自分にはよいところがあると思いますか。	17.0%	39.4%
難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していますか。	21.3%	27.6%
人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	48.9%	75.1%
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	70.2%	83.9%

朝食については全国平均を 6.2 ポイント下回っていますが、就寝については 8.2 ポイント、起床については 4.9 ポイント上回っています。挑戦心は全国平均を 6.3 ポイント下回っています。また、自己肯定感が全国平均を 22.4 ポイント下回り、自己有用感は全国平均を 26.2 ポイントも下回りました。いじめを容認しない規範意識が全国平均に比べて 13.7 ポイントも下回っていることは課題です。

≪家庭学習の様子≫

調査の項目	本校%	全国平均 %
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。	23.4%	27.5%
学校の授業時間以外に、普段１日当たりどれくらいの時間勉強していますか。「３時間以上」	8.5%	11.3%
「２時間以上、３時間より少ない」	4.3%	13.8%
「１時間以上、２時間より少ない」	31.9%	34.3%
「３０分以上、１時間より少ない」	31.9%	25.8%
「３０分より少ない」	17.0%	10.5%
「全くしない」	6.4%	4.2%

計画的な家庭学習習慣については全国平均を 4.1 ポイント下回りました。勉強時間が１時間未満の児童が 5 割を超えており、中には全く家庭学習をしていない児童もいました。かなり個人差が見られますので、家庭学習の手引きをもとに家庭学習の意味を保護者や児童に伝えて家庭学習が習慣化するように指導していきます。また、自分の目標に向かって計画を立てて家庭学習を行う習慣についても指導していきます。

（２）改善に向けての取り組み

【学校では】

○学校からは、学年に応じた宿題を出しています。今年度から「もろなんノート」に取り組んでいます。「もろなんノート」とは、活用問題を家庭学習で取り組むためのノートです。学習状況調査の過去問や CRT の練習問題に取り組み、同一問題に３回は挑戦するようにしています。

○自他の良さを認める活動を取り入れています。「ありがとうの木」で友達のよいところを紹介したり、帰りの会等で友達のよいところを認め合う時間を設定したりしています。

○いじめを容認しない、また、規範意識を高める教育活動をあらゆる場面で取り入れています。毎月の生活アンケートや道徳の授業、人権集会等、日々の教育活動の中で、取り組んでいます。

【ご家庭では】

○上記の家庭学習についての調査の項目は、改善を図ろうと年に２回、中学校のテスト期間に合わせて「家庭学習がんばり週間」でも取り上げている項目です。 「家庭学習がんばり週間」だけでなく、規則正しい生活と家庭学習の定着は極めて大切なことです。お子さんが自分からできたとき、少しでも向上したときを逃さず、褒めることで意識が更に高まります。

○低学年・中学年・高学年別に「家庭学習の手引き」を作成し、各家庭に配布しています。家庭学習の手引きをご覧になり、学習時間のめやすや、学習のポイントを参考にして自分で学習できるように励ましてください。